

15	豊川	東部小学校	シモ	アズキ
			名前	志茂 あずき
分科会番号	6	分科会名	生活科教育	

研究題目

**粘り強く取り組みながら、自他のよさに気づくことができる子の育成**

～1年 生活科 「あきとなかよし」の実践を通して～

1 単元について

(1) 単元設定の理由

本学級の子どもたちは、何事にも一生懸命がんばる姿や、誰かが困っているとすぐに気づいて手を差し伸べようとする姿が見受けられる。また、素直な子が多く、教師の話にはリアクションをとることが多い。これまでの生活科の授業では、2年生との学校探検、シャボン玉を作る学習などを行ってきた。休み時間に植物や虫を捕ったり、観察したり、身の回りの自然に興味・関心がある。しかし1学期に行ったアサガオの学習では、育ちの悪い自分のアサガオを友達のものとは比べて落ち込んでしまい、育てる気持ちが薄れてしまう子たちもいた。

これらの実態を踏まえ、生活科を中心に「学習に粘り強く取り組むこと」や「自分や仲間のよさに気づく」力を高める取り組みを行いたいと考えた。まず秋についてイメージし、身近な場所から季節の変化や秋の特徴をとらえる。紅葉した落ち葉や木の実に触れる活動を通して体全体で秋を感じさせる。また秋に親しむだけでなく、秋にみられる植物を使って、秋のおもちゃを制作させる。単におもちゃを制作させるのではなく、2年生を招待する「秋祭り」を設定することで、「誰かのために」という目的をもたせどのようなおもちゃにしたいか、どのようにして遊びたいかなど、思いや願いをもたせたいうで制作させる。そして、行き詰まった時に仲間とかかわる場を積極的に設け助言し合うことで、思いや願いに近づけさせ、自信がわいたり、仲間のよいところに気づいたりするきっかけになるだろうと考えた。単元の最後には、これまでのがんばりや見つけた秋のよさを振り返ることで、達成感を味わう姿を期待したい。

(2) めざす子ども像

- ・ 思いや願いをもち、粘り強く学習に取り組むことができる子
- ・ 仲間とのかかわり合いを通して自分や仲間のよさを認めることができる子

(3) 研究の仮説と手立て

【仮説Ⅰ】 自分の思いや願いを具体的にもつ場を設定することで、その思いに向かって粘り強く活動することができるだろう。

手立てⅠーア 秋の特徴や季節の変化をとらえる場の設定

手立てⅠーイ 思いや願いを具体化し、常に見返すことができる場の設定

【仮説Ⅱ】 仲間と褒め合ったりアドバイスし合ったりする場を設定することで、自信をもつことができ、自分や仲間のよさに気づくことができるだろう。

手立てⅡーア 「〇〇名人」の設定

手立てⅡーイ 「きもちふだ」を活用した話し合いの場の設定

手立てⅡーウ 他学年との交流を設け、自分の取り組みを客観視できる場の設定

#### (4) 検証の方法

抽出児（A児）の変容を追うことにより、仮説とその手立ての有効性を検証することにする。A児の実態と本実践における願いは次の通りである。

##### 【実態】

- ・元気で、活発。リーダーシップをとることがある
- ・正義感が強いあまり、間違いがあると自信をなくす
- ・周りの実態と比べて、調子に乗ったり落ち込んだりすることがある
- ・自分で何か手を打つ前に、助けを求めてしまう



##### 【願い】

- ・少しでもできることを増やし、自信や達成感を味わっている姿
- ・みんなで1つのゴール（秋祭り）を通して仲間と助け合える姿
- ・思いや願いをもって最後まで粘り強く取り組む姿

#### (5) 単元構想図

単元計画（20時間完了）	教師の手立て
○見つけよう！ 秋の魔法～東部小の秋～ ①② ・夏の様子と秋の様子を比べて気づいたことについて話し合う ・秋マップを作成し、実際に秋の植物を見つける	※1 夏マップと比較することで秋の様子がわかりやすくなる。「秋と言えば」のテーマについて秋にまつわる言葉やイメージを書くようにする。（手立てⅠーア）
○秋のおくりものと向き合おう ③④ ・秋のおくりもので、どんな遊びができるかを考える	※2 遊び方のヒントを見つけられるようにワークシートを活用する。諸感覚を使って見つけたものの特徴をまとめさせることで、遊び方の手がかりを見つけられるようにする。（手立てⅡーア）「名人」
○秋と遊ぼう～秋の発明家になろう～ ⑤～⑧ ・実際に作ってみたいものを決めて、秋のものでおもちゃをつくる ・おもちゃを計画書に書いて作成を行う	※3 作ってみたいものを決める際、何も浮かばないことが予想される。グループや全体で交流させることで自分にできそう、一緒にやってみたいというものを選ぶようにさせる。（手立てⅠーイ）
○秋と遊ぼう ～秋のおもちゃ研究～ ⑨～⑫ ・作った遊び道具をさらによくする方法はないか、話し合う	※4 「作る」「試す」を繰り返す場を設けたり、友達からアドバイスをもらう場を設定したりすることで、おもちゃをよりよくしたいという気持ちを高める。（手立てⅡーイ）
○どうする秋まつり？ ～君たちは秋まつりをどう楽しませるか～ ⑬～⑯ ・各おもちゃの遊び方やルール作りについての話し合いをしたり、お客さん役とお店屋さん役に分かれて秋まつりの練習を行ったりする	※5 2年生に秋まつりを楽しんでもらうために、遊びのルールを作成する。お店屋さん役とお客さん役に分かれて秋祭りの練習をさせたり、「きもちふだ」を活用しながら準備をさせる。（手立てⅡーア、イ、ウ）
○秋まつりが始まるよ～みんなで秋を楽しもう～ ⑰⑱ ・2年生を招待して秋まつりを行う	※6 実際に秋まつりを行わせ、さらに秋への興味・関心を引き立たせる。まつり後は、秋まつりの振り返りを「秋」「自分」「仲間」など観点別に分けて振り返る。初回に行った秋マップにさらに秋の言葉を書かせ、比べさせる。（手立てⅠーア、Ⅱーア、ウ）
○ふりかえり～発見！秋のよさと友達と自分のよさ～⑲⑳ ・秋祭りの振り返りと単元の振り返りを行う	

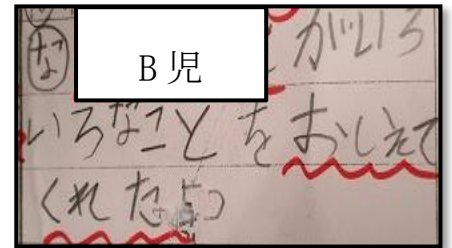
## 2 研究の実践

### (1) 秋に興味をもつA児

第1時では、みんなが秋に対してどんなイメージをもっているのか、子どもたちのイメージを可視化するために「秋マップ」を作成した。子どもたちは、1学期に制作した「夏マップ」の結果を活かして「植物」に注目していた。「どんぐり」や「まつぼっくり」など書いている中、一人の子が「今は夏か秋かどちらですか」と質問した。それに対し「今は暑いから、夏だよ」と答える子もいれば「もう10月だから、秋じゃないの？」と答える子もいた。10月の気候は真夏日に近いほどの暑さで紅葉を全くしておらず、秋を想像することがとても難しそうだった。A児もその一人で秋マップの所に「暑い」と書いていた。(資料1) 戸惑う様子もあったがA児の振り返りには「難しかったけどどうなるか楽しみ」とあり、秋に対して少し興味をもつA児の様子がわかった。(手立てIーア)



資料1：A児の秋マップ



資料2：秋ビンゴ後のA児の振り返り

第2時では、外へ行き秋見つけを行った。本時では「秋ビンゴ」という活動を行った。「秋ビンゴ」とは第1時で出てきた言葉や教科書で出てくる秋のおくりもの(植物など)を表にし、見つけたら丸をうっていくものだ。(手立てIーア) 秋ビンゴ中、A児は「みんな、もう2個も秋を見つけている、どうしよう」と他の子と比べて落ち込んでいる様子があった。そこでたくさん見つけている子に教師が「秋見つけ名人」と名づけて、「名人たちに声をかけてみよう!」と全体に伝えた。すると「教えて!」「これってどこにあった?」とA児はすぐに名人のところへ行った。A児の振り返りには「Bくんがたくさん教えてくれました」と書かれていた。(資料2) A児は秋を見つけただけでなく、仲間のよさも見つけることができた。(手立てIIーア)

### (2) どんぐりごまを研究するA児

前時までにさまざまなおもちゃを作ってきたが、教師が予想していたよりもどんぐりごまの人气が減っていた。理由を尋ねると「穴を空けることが難しいから」「作ってみたけどうまく回らなかったから」という思いをもっていることがわかった。そこで、みんなでどんぐりごまを作る時間を設け、既に穴が空いているどんぐりと、何もしていないどんぐりの2種類を渡した。「きもちふだ」を活用し、作っている状況や気持ちをクラス全体で可視化できるようにした。ほとんどの子どもたちは持ち手(つまようじや竹串)をどんぐりに差し込むことはできていたが、どの長さが適当なのか、どのようにしたらたくさん回るのがかためらう姿が見られた。他の子が既にこまを回している様子を見て焦っている様子だったため、作業の途中で全員に「きもちふだ」を提示させた。(資料3)「みてみて」と「おしえて」がほとんどだった。A児は「おしえて」の表示にしていた。

#### 【きもちふだの表示について】

『教えて』…分からないことがあった時、  
教えてもらいたい時。  
『あと少し』…自分の力で検討したい時。  
『みてみて』…何かができた時、  
誰かに見てほしい時



資料3：きもちふだについて

そこでクラスの人数を半分に分けて、ふだを見ながら教えてもよし、教えてもらってもよしの「どんぐりごま研究会」を始めた。これまでは、ふだを教師に見せて助けを求めていたが、今回は子どもたちだけで話し合いを進めていた。「教えて」を表示していたA児に対して、「竹串は、この長さまで切るといいよ」「どんぐりの先ちょを切ってみたよ」といったように、言葉で説明する子、作ったどんぐりご

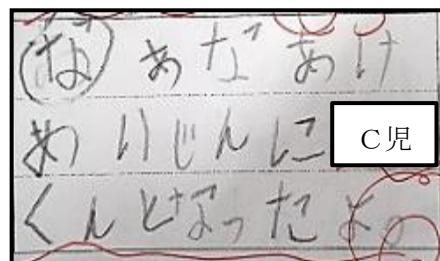
まを見せている子などいろいろなやり方で説明する姿が見られた。A児も、竹串の長さに悩んでいたが、鉛筆で印をつけながら決めた長さを切ることができた。A児のこまをはじめ、ほとんどのこまは長い時間回り続けることができた。教師が「きもちふだ変えたい子は変えてみてね」と言うと、A児を含め、ほとんどの子たちが「みてみて」の表示に変えていた。(手立てⅡーイ)

### (3) 秋祭りを極めるA児

秋祭りに向けてどのおもちゃを担当したいか、アンケートを取りグループを作った。A児はやじろべえを担当することになった。どんなおもちゃになってほしいか、思いや願いを話し合い、まずはやじろべえの数を増やすことを目標とした。どんぐりごまをみんなで作っていた時からキリを置いていたのだが、穴を空けることが難しいということから教師に穴を空けるのをお願いしに来た。途中からチームの一人(C児)が「やっぱり、自分で穴を空けてみる」と言い出した。この発言に周りも驚いていたが自分からキリや粘土(土台)をもってきて試行錯誤し始めた。(資料4)何度も挑戦するうちに「回したあとに、強く押す」というコツをつかんだ。すると穴はすぐに空き、同じグループの子も驚いていた。もう1個同じことを試して、そのどんぐりも見事に穴が空いた。「Cくん、すごい!」「どうやったの!？」とA児は興味津々だった。教師からも「Cくん、この時間に2個も穴を空けられてすごいね、穴空け名人じゃん!」と褒めると、「俺も俺も」とさっきまで教師の列に並んでいた子たちが、すぐにC児にやり方を教えてもらっていた。前までは、周りと比べて落ち込んだりやる気をなくしたりしていたA児が、C児の姿を真似して取り組んでいた。するとA児もコツをつかんで、気づくとたくさんどんぐりに穴を空けていた。「A児くんも穴を空けられたの!」「すごい!」とやじろべえチームではない子たちも様子を見に来て言った。「先生、Aくんも、穴空け名人になったよ」とC児が教師に報告しに来た。それを聞いたA児はとてもうれしそうにしていた。振り返りにも穴空け名人になれたことを書いていた。(資料5)同じグループの子もA児のよいところを振り返りに書いていた。同じ思いや願いをもつ子同士が協力し、仲間のよさに気づくことができた。(手立てⅡーア)



資料4：穴空けに試行錯誤するA児とC児



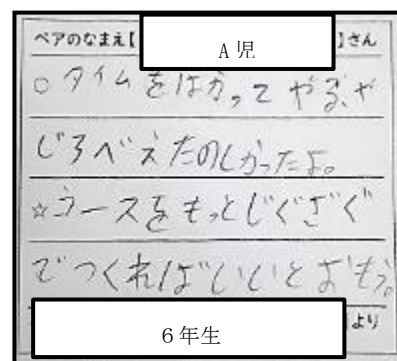
資料5：やじろべえ制作のA児の振り返り

そして個人やグループで考えたルールを実際に試す時間をとった。ここでも各お店に「きもちふだ」を準備させ、現地点での気持ちを表示させた。すると6つあるお店のうち4つが「おしえて」のふだを、1つは「あと少し」、もう1つは「みてみて」を表示していた。お店屋さん役とお客さん役に分かれて、そのルールでゲームが成り立つのか秋祭りの練習を行った。ただお店に行き遊ぶのではなく「ほめ名人」と「アドバイス名人」を設定し、(資料6)お互いのグループを評価させるようにした。「迷路チームで、飛んだり転がったりするところが面白かった」とよいところを見つけていくことができていた。アドバイスでは「(けん玉チームに対して) ひもを短くするといい」「(こまチームに対して) ダンボール(こまを回す土台)を頑丈にするといい」といった意見が出た。A児を含むやじろべえチームに対しても「どんぐりが取れないようにボンドとガムテープで止めるといいかも」という意見が出た。アドバイスをもとにどのチームも手直しし、できていないチームを手伝う姿が見られた。

- 【ほめめいじん】
- ・〇〇なところが面白かったよ
  - ・〇〇なところがいいね
  - ・〇〇なところをまねしたいな
- 【アドバイスめいじん】
- ・もっと〇〇するといよ
  - ・もう少し〇〇すると楽しくなりそう
  - ・もう少し〇〇だと、いいね

資料6：ほめ名人とアドバイス名人について

秋祭りまであと3日となったところで、ペア学年である6年生を招待し祭りの練習を行った。6年生にはペアがいる店の「よかったところ」と「改善点」を記入し1年生に渡すようお願いした。また1年生の子どもたちの思いを知るためにアンケートを取った。クラスの半分以上が「少し大丈夫」「大丈夫」と答えた。祭りの練習が始まるとこれまでやってきたようにルールややり方を一生懸命教えていた。終了時に、再びアンケートを取ると「少し不安」「不安」と答えた人のほうが多かった。理由を聞くと「ルールがうまく言えなかったから」「6年生が楽しんでいなかったから」と答えていた。A児も「これが本番だったら危なかった」と口にしながらもらったカードをしっかりと読んでいた。(資料7) 異学年と交流し、客観視することで子どもたち自身では気づけなかったことに新たに気づくことができた。(手立てⅡ-ウ)



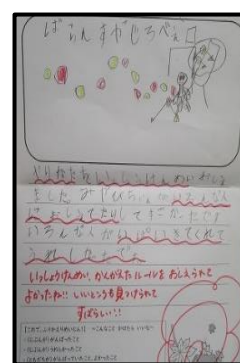
資料7：6年生からもらったカード

#### (4) 秋祭り本番を迎えるA児

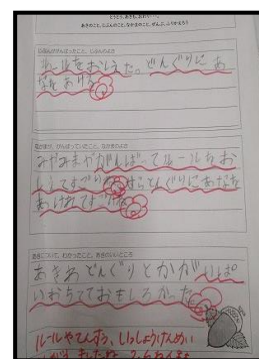
秋祭りの前にこれまで書いた振り返りやワークシートを見返して、A児は「俺、がんばったな」とやってきたことに胸を張っていた。祭りが始まるとA児を含む子どもたちはとても緊張していたが、いつも以上に「いらっしゃいませ!」「来てください!」と叫んでいた。「お店屋さんとしてもてなしたい」と思ったのか、2年生が何かうまくいくと「おお!すごい」と2年生を褒めていたり、拍手をして盛り上げたりしていた。A児を含むやじろべえチームは、2年生に遊んでもらう前に自分たちがデモンストレーションを行っている姿が見られた。2年生も1年生自身も楽しそうにしている様子が見られた。(手立てⅡ-ウ) 終了後、振り返りを行った。『ふりかえり名人～こんなこと、かけたらいいな』というテーマのもと、「(自分が) がんばったこと」「(自分が) うれしかったこと」「(友達が) がんばっていたこと、よかったこと」の3つのどれかが書けるとよいことを伝えた。(手立てⅡ-ア) これまで振り返りを書くことが苦手だったA児だが、自分が一生懸命がんばったこと、友達ががんばっていたことを見つけることができていた。さらに、単元導入時と比べて秋マップに書く言葉の量が多くなったことから、秋の変化や特徴をつかむことができたことがわかる。(手立てⅠ-ア) これらの様子からA児は自分の力ががんばったこと、友達と協力しながらできたことが増え、自信につながっているのではないかと考える。

#### (6) 自分のよさと仲間のよさを見つけられたA児

秋祭りの振り返りを行った際、A児は「もう一回秋祭りをやりたい」と言っていた。振り返りにも『ふりかえり名人～こんなこと、かけたらいいな』という名前のもと、「(自分が) がんばったこと」「(自分が) 嬉しかったこと」「(ともだちが) がんばっていたこと、よかったこと」の3つのどれかが書けるとよいと伝えた。(手立てⅡ-ア) A児はすぐに鉛筆を走らせ一生懸命書いていた。(資料8) また単元の振り返りをクラス全体で行った。「長かったけど楽しかった」「またやりたい」と達成感に満ちあふれた思いをA児を含めたくさんの子が書いていた。(資料9)



資料8：秋祭りのA児の振り返り



資料9：A児の単元振り返り

### 3 研究の成果と課題 (○成果、●課題)

#### 手立てⅠ-ア 秋の特徴や季節の変化をとらえる場の設定

○単元の導入では、地球温暖化の影響により秋へのイメージをすることが難しく思ったが、実際に秋見つけに行くと「どんぐり」と言わずに「マテバ

